

株主の皆様へ

日本板硝子株式会社

第159期 株主通信

2024年4月1日～2025年3月31日

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第159期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の概況についてご報告申し上げます。

2025年6月

日本板硝子株式会社
取締役 代表執行役社長兼CEO

細沼 宗浩



2025年3月期は、引き続き欧州の景気減速の影響、及び世界的なインフレに伴う人件費等のコスト上昇の影響を大きく受け、建築用ガラス事業及び自動車用ガラス事業で収益性が大幅に低下しました。欧州の厳しい事業環境に対応するため、リストラクチャリングに係る一過性の費用を個別開示項目に計上しました。

その結果、当期の業績は、売上が前期比0.9%増の8,404億円(前期は8,325億円)、営業利益は前期比54.0%減の165億円(前期は359億円)となりました。また税引前損失は85億円(前期は176億円の利益)、当期損失は135億円(前期は109億円の利益)、親会社の所有者に帰属する当期損失は138億円(前期は106億円の利益)と前期より大幅に悪化しました。当期が初年度となる中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の財務目標(営業利益、営業利益率、フリー・キャッシュ・フロー、有利子負債、自己資本比率)の達成には遅れが生じましたが、戦略の柱である4つの**D**(Business **D**evelopment、**D**ecarbonization、**D**igital Transformation、**D**iverse Talent)に基づき、後掲のとおり北米で新たに太陽電池パネル用ガラスの生産を開始する等の施策を推進しました。

2026年3月期は、米国関税政策の動向に注意が必要な

ものの、欧州の市場は下半期以降緩やかに改善する見込みです。建築用ガラス事業では、引き続き太陽電池パネル用ガラスの需要が堅調で、1月に稼働を開始した北米の新設備が通年で寄与します。また自動車用ガラス事業では、自動車に対する需要を背景に販売数量が緩やかに回復する見込みで、販売価格改善交渉も継続いたします。高機能ガラス事業では、依然高い利益率を確保する見込みです。4つの**D**を通じて事業環境による影響を受けにくい高収益企業への転換、キャッシュ創出力強化により有利子負債の抜本的な削減を推進し、自己資本を増強してまいります。

当社グループでは、持続可能な事業の業績と財務基盤をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としておりますが、当期の普通株式の期末配当につきましては、当社グループの財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら、その実施を見送ることいたしました。

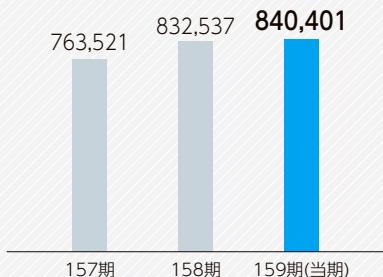
配当は株主の皆様にとって非常に重要なものであると認識しており、グループの早期の業績改善、財務基盤の強化に注力し、一日も早い配当再開を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

売上高 **840,401** 百万円

(単位:百万円)



営業利益 **16,491** 百万円

(単位:百万円)



親会社の所有者に
帰属する当期利益 **△13,831** 百万円

(△は損失)

(単位:百万円)



注1: 当社は国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。

注2: 上記に記載の営業利益は、個別開示項目前営業利益を記載しています。

NSG at a Glance

2024年4月1日~2025年3月31日

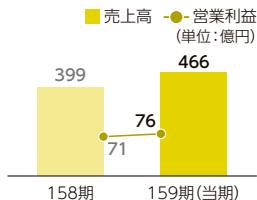
高機能
ガラス

6%

● 日本、中国、欧州に主要製造拠点

● ニッチ市場でNo.1/Only 1

- ・プリンター用レンズ、ガラスコード、メタシヤイン®は需要堅調。ファインガラスも数量等が改善。
- ・コスト増加の影響を受けるが増収増益。



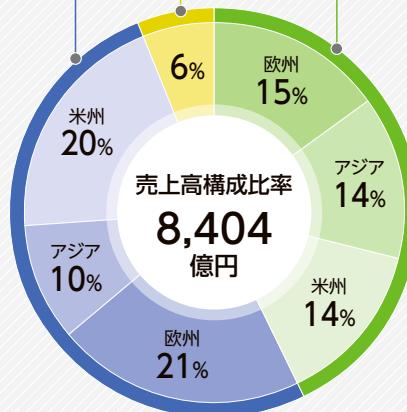
自動車用
ガラス

51%

● 13か国に主要製造拠点

● 補修用ガラスの流通・販売で世界最大級

- ・欧州での自動車生産減少、アジア・北米での取引先の生産停止等があったが、円安も寄与し増収。
- ・欧州経済減速の影響が大きく販売価格改善交渉等を進めるが減益。



売上高構成比率
8,404
億円

建築用
ガラス

43%

● 世界に27のフロート窯

● 薄膜太陽電池パネル用ガラスのリーディングサプライヤー

- ・欧州経済の減速等により欧州を中心に販売数量が減少、販売価格も低下し減収減益に。

- ・太陽電池パネル用ガラスは需要堅調。米国で新ラインが稼働開始。



中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の概要

当社グループは、2025年3月期を初年度とする中期経営計画「2030 Vision:Shift the Phase」において、4つの「D」を戦略の中心に据え、収益性の強化、キャッシュ創出力の強化により有利子負債の抜本的な削減を推進し、自己資本の増強を目指していきます。

ゴール | 企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す

コミットメント

- 私たちは、すべてのステークホルダーのために、そしてステークホルダーとともに、持続可能な社会を実現する価値を創造する
- 私たちは、顧客のソリューションにおいて重要な役割を果たすガラスとその関連技術・サービスを開発し、提供する
- 私たちは、顧客の潜在的なニーズを深く理解し、有形無形の資産を活用して顧客に適したソリューションを提供する
- 私たちは、グローバルで多様性に富み、ガラスに情熱を持ち、才能あふれるチームを誇りとし、人材への投資を続けていく

2024年3月期		NSGグループ戦略方針 4つの「D」		2027年3月期	
営業利益	359億円	Business Development 新製品および事業開発の強化を図り		640億円	2030年3月期 営業利益率(ROS) 10%以上 を目指す
営業利益率(ROS)	4.3%	Decarbonization 社会の脱炭素化への貢献を目指す		7%	
フリー・キャッシュ・フロー	153億円	Digital Transformation デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションを構築して		270億円	
有利子負債	5,065億円	Diverse Talent フェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームを実現する		4,420億円	
自己資本比率	12.3%			15%	

中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況

欧州経済減速の影響を大きく受けましたが、欧州の建築用ガラス事業及び自動車用ガラス事業以外の事業は計画通り進捗しています。引き続き収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに注力していきます。

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期(通期) 実績
収益性(P/L)	営業利益	640億円		165億円:主に欧州経済減速の影響を受ける 欧州の建築用と自動車用ガラス事業以外は計画通り
	営業利益率(ROS)	7%	10%以上	2.0%:第3四半期から0.3pt改善
キャッシュ創出(C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		100億円:営業減益だが運転資本の改善により フリー・キャッシュ・フローはプラス
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,284億円:前期末から184億円増加
	自己資本比率	15%		10.5%:前期末から1.9pt低下

中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」4つの「D」の進捗状況

欧州を中心に厳しい事業環境が続いていますが、中期経営計画と4つの「D」に対するコミットメントは不変であり、引き続きリソースを柔軟に確保しつつ戦略を推進していきます。

	進捗状況
Business Development (ビジネスデベロップメント)	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国オハイオ州ロスフォードの既存フロートラインの転換工事が完了、太陽電池パネル用ガラスの生産を開始 ● 欧州の建築用ガラス事業(ダウンストリーム、板ガラス加工工程)において、脱コモディティ製品強化を推進 ● ペロブスカイト太陽電池市場の開拓に向け、グループ横断の運営委員会を設置
Decarbonization (脱炭素化)	<ul style="list-style-type: none"> ● 太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強は、二酸化炭素排出量削減に貢献しつつ業績改善に寄与
Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)	<ul style="list-style-type: none"> ● ERPシステムの統合に向けてパイロット版の提供を一部地域で開始
Diverse Talent (多様な人材)	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性管理職比率は2024年3月期の16.8%から2025年3月期に18.0%に上昇 ● 人事情報システム構築について、現状分析及び要件定義の策定が完了

Business Developmentを通じて強化する戦略製品の例

建築用ガラス事業

- 太陽電池パネル用ガラス



- 低放射 (Low-E) ガラス
- トリプル複層ガラス
- コーティング付複層ガラス



自動車用ガラス事業

- ヘッドアップディスプレイ (HUD)
- 拡張現実 (AR) HUD



- 発熱フロントガラス
- 大面積・低熱放射ルーフライト
- 調光ルーフライト ● 高機能ルーフライト



高機能ガラス事業

- 自動光学検査装置向けレンズ
- ガラスフレーク
- 高弾性/高強度ファイバー (MAGNAVI®)



- ベースメイク向けパウダー製品 (MAR'VINA®/GLACIA DROPS™)



TOPICS

TOPIC
1

太陽電池パネルの世界的需要拡大への対応(米国)

当社グループは、世界最大級の薄膜太陽電池メーカーであり、長年にわたる戦略的パートナーである米国ファーストソーラー社の需要拡大に対応し、各国での太陽電池パネル用透明導電膜付ガラスの生産能力を増強しています。

2025年1月には、米国オハイオ州・ロスフォード工場で、既存ラインを転換した新設備を稼働させました。当社グループの太陽電池パネル用ガラスは、独自のオンラインコーティングによる高い膜耐久性とコスト競争力を有し、同市場の世界的な拡大に貢献しています。



TOPIC
2

国内外展示会に当社独自の次世代技術を出展

高機能ガラス事業部門は、アジア最大級のエレクトロニクス開発・実装展「第39回ネコンジャパン」(2025年1月、東京ビックサイト)および中国最大のマシンビジョン展「Vision China (Shanghai) 2025」(2025年3月、上海)に出展しました。

前者では次世代半導体に貢献する高性能光学素子など、後者では自動検査や光通信等幅広い用途で採用が進む「SELFOC®レンズシリーズ」など、社会課題解決に貢献するユニークな製品群を多数展示し好評を博しました。



TOPIC
3

「METASHINE ECO™」の開発 ～CO₂排出量を最大30%削減～

当社は、エネルギー負荷を大幅に低減させた光輝材「METASHINE ECO™」(メタシャイン エコ)を開発しました。「METASHINE®」*シリーズは、当社独自開発の光輝材として産業用、化粧品用等で幅広くご利用いただいておりますが、本製品は、その特徴を維持しつつ、再利用が困難と思われてきた組成の異なるガラス端材を原料とすることに成功したものです。廃棄ガラス削減とともに、CO₂排出量を最大30%削減する製品(当社従来品比)として、2026年の販売開始を目指します。



*フレック状ガラスの表面に金属酸化物等をコーティングした光輝性無機顔料

TOPIC
4

CDPより2年連続で 「気候変動 A-」評価を取得

当社は、CDP*より、リーダーシップレベルに該当する「気候変動 A-」評価を2年連続で取得しました。これは、当社グループの気候変動への継続的かつ積極的な取り組みと透明性の高い情報開示が評価されたものです。

*企業や自治体に気候変動対策に関する情報開示を促し、活動内容の評価を行う国際的な非政府組織 (NGO)

CDP
Discloser
2024

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当9月30日・3月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(郵便物ご送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話ご照会先)	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間9:00-17:00 (土日休日を除く)

▶ ご住所変更などのお届出およびご照会について

〈証券会社に口座をお持ちの株主様〉

取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

〈証券会社の口座をお持ちでない(特別口座の)株主様〉

上記の(電話ご照会先)までお問い合わせください。

サステナビリティへの取り組みを通じて、
持続可能な社会の実現に貢献します



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



会社概要 (2025年3月31日現在)

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産東京三田サウスタワー)
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	25,406人
資本金	116,892百万円
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:5202)
お問い合わせ	https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

▶ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と合わせて1単元(100株)に達するまでの株式を買い増すこと)

をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、左記 ▶[ご住所変更などのお届出およびご照会について](#)に記載の照会先にお問い合わせください。

当社ウェブサイト・SNSのご案内

当社ウェブサイトでは、決算情報や最新ニュースなど、投資家の皆様への様々な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



<https://www.nsg.co.jp/>

Facebook



X(旧Twitter)



Follow me!

当社公式
SNSキャラクター
Nグマくん

